

乳房炎対策 ～ 基本を見直そう！ ～

●黄色ブドウ球菌 (SA) による乳房炎 ●

今年（平成 29 年）6 月に実施したバルク乳検査では、39 戸中 26 戸（66.7%）の農場から SA が検出されました。過去に実施した検査結果とあわせると、約 80% の農場で SA 感染牛（保菌牛）が存在すると考えられます。

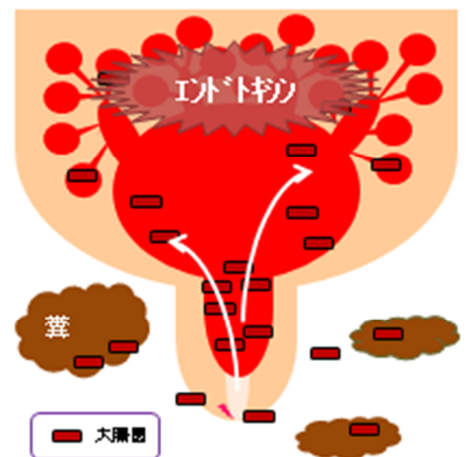
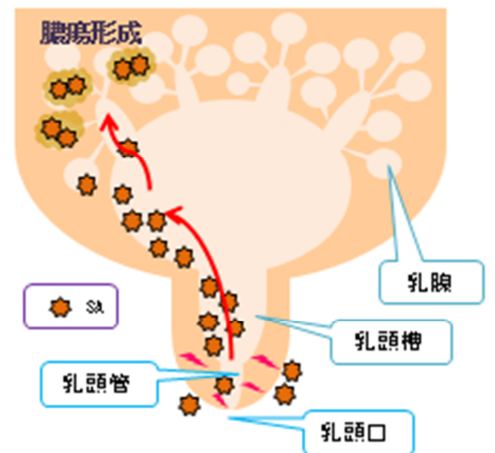
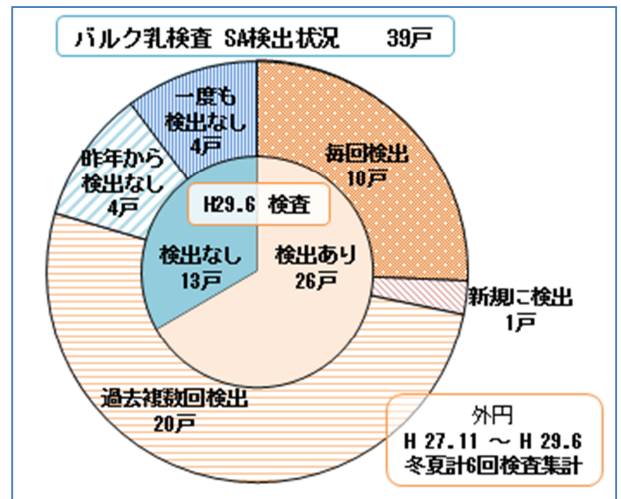
SA はミルカー、搾乳者の手指やタオルを介して伝染し、乳頭皮膚のひび割れや傷、乳頭口粘膜の損傷があると菌が侵入・増殖し、感染の機会がより増えます。

搾乳中に乳頭口へ付着した SA は 1～3 日の間に乳頭管で増殖し、乳房内に移行します。乳房内では膿瘍を形成するため、抗生物質の効きが悪く治療が難しくなります。

●大腸菌による乳房炎 ●

大腸菌は糞、はね水などから、乳頭へ接触する機会がいつでもあります。乳頭口の損傷や乳汁の逆流（ドロップレツツ現象）等があれば、搾乳中に乳頭口から乳頭管内に侵入します。

大腸菌性乳房炎では慢性に移行する場合がありますが、分娩直後などでは感染後 12～18 時間の間に急激に菌が増殖し、毒素（エンドトキシン）による全身への影響が起こることがあります。そのため、感染初めは乳房炎の症状（乳汁異常、乳房の腫脹・硬結、PL テストの反応など）が軽くても、急激に牛の状態が悪化するため対応が遅れがちになります。



● 乳房炎を防ぐために ～病原体の侵入は乳頭口から～ ●

ほとんどの場合、乳房炎を起こす病原体は乳頭口から入ります。乳頭口から侵入した病原体の多くは乳頭口や乳頭管の粘膜のバリアに阻まれて、定着できずに搾乳中に排出されたり、乳腺の免疫細胞によって排除されます。しかし、乳頭口皮膚に傷などがあつたり、ストレス等で牛が弱っていて免疫反応がうまく働かない場合、また病原体が非常に強力で数が多い場合などには炎症が起こります。

そのため、①病原体が乳頭口より侵入できないような管理、②牛の免疫力を高める管理、③病原体を増やさない管理 をできるだけすることがとても重要です。

病原体が乳頭口より侵入できないような管理

乳頭口を傷つけない



過搾乳に注意

適切なミルクカー管理

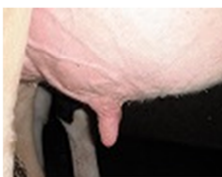
搾乳衛生



搾乳手袋使用

1頭1布で清拭

乳頭口周辺に存在する細菌を減らす



乳頭を清潔で乾燥した状態に保つ

搾乳前後の乳頭消毒（ディッピング剤）
病原体が乳頭管に侵入する前に殺菌



牛の免疫力を高める管理

ストレスの軽減

暑熱対策

削蹄

適切な飼養管理

乳房炎ワクチンの利用

SA、大腸菌群、コアグララーゼ陰性ブドウ球菌による乳房炎の症状を軽減する効果があります

☆ 詳しくは担当獣医師にご相談ください

病原体を増やさない管理

牛床を清潔に

こまめな除糞、敷料の交換

ストリップカップ使用

乳房炎牛の早期発見・治療

PLテスター使用

分房乳検査

感染牛の隔離

乾乳期治療

搾乳衛生・管理等のご相談はお気軽に！

連絡先 飯田家畜保健衛生所 保健衛生課 Tel:0265-53-0439 Fax:53-0441